

カナダに於ける歯科教育の歴史

第 4 報

—1870～1879 年間の歯科及び歯科教育の貢献者像—^{*1}

尾 島 光 栄^{*2} Kenji Kenneth SHIMIZU^{*3}

要旨：近代化しつつあるカナダの 1870～1879 年間に於ける歯科学や歯科教育および歯科臨床等に貢献した諸人物像に就いて、彼等のプロフィールや活動の業績等を彼等の時代背景と共に第 1, 2, 3 報に引き続いて年代を追って順次に紹介する。

During the period from 1870 to 1879 in modernizing Canada, Authors tried to introduce the contributors and their profiles and efforts on the Dentistry, Dental Education and Dental Practice continued from No. 1, 2 and 3.

Key words：Dentistry 歯科学, History of Dental Education 歯科教育歴史, Contributors of Dental Education 歯科教育貢献者

1. はじめに

カナダの東部地域から西部の領土にも開発の槌音が響き来て、近代化する独立国家への政治的な始動は、歯科領域にも激しい変革行動が押し寄せ、時代に即応すべく歯科医師会の設立と団結、歯科医師の登録、免許、歯科専門医師の教育と養成の必要性が益々高まり、歯科医学の専門教育機関の設立と発展が進み、それには多数の歴史的に偉大な数々の貢献者等が登場するが、これらの貢献に

登場した人物達のプロフィールと諸業績等々に就いて、日本歯科医史学会々誌 19 巻 3 号 (1993)¹⁾, 20 巻 2 号 (1994)²⁾, 20 巻 3 号³⁾に引き続いて、Gullett⁴⁾ の著書の翻訳を兼ねて 1870～1879 年間を中心に年代順に紹介し、本間の著書⁵⁾より抜粋した同時代の日本近世歯学史・社会・文化史年表 (**Fig. 1**) を照合して紹介致します。

2. 主な登場人物—登場順—

Alexander Graham Bell
S. J. Sovereign
William George Beers (JSDH, 20 (3), Fig. 2)
James Branston Willmott
Luke Teskey
Walter E. Willmott
Francis G. Callendar
C. S. Chittenden
H. Hipkins
Thomas Rowe
Henry T. Wood
J. A. Bazin
Charles A. Martin

^{*1} History of Dental Education in Canada No. 4
—Contributors of the Dentistry and Dental Education during the period from 1870 to 1879—

^{*2} Koei OJIMA, The Nippon Dental University, School of Dentistry at Tokyo, Department of Physiology 日本歯科大学歯学部, 生理学教室

^{*3} Kenji Kenneth SHIMIZU, The University of British Columbia, Faculty of Dentistry, Department of Clinical Dental Sciences, Division of Prosthodontics and Department of Oral Medical and Surgical Sciences プリティシュ・コロンビア大学歯学部臨床歯学部, 補綴学部門, 口腔医学・外科学部門

西暦	和暦	歯 学 史	社会・文化史
1870	明治 3	エリオット：来朝して横浜に開業す モリソン：足踏エンジンの改良(1876年に S. S. ホワイト社より発売) この頃よりアルミニウム鑄造床が使用された	○1870：平民の苗字を許可 この頃より英・米の科学書の輸入紹介がはじまった
1871	明治 4	ジャック：隔壁法の応用 キングスレー：歯列矯正に関する論文の発表 大学東校にドイツ人教師着任	○1871：郵便開始 廃藩置県 ○1872(明治5)：福沢諭吉、学問のすすめを刊行 新橋―横浜間鉄道開通 暦制改正(太陽暦採用) ○1873(明治6)：徴兵令公布 ○1875：東京気象台設置
1875	明治 8	小幡英之助、歯科試験に合格(歯科免許のはじめ) 文部省は西洋医学のみによる医術開業試験法を定む	
1876	明治 9	伸沢道盛の指導下で松川修はタフトの歯科治療学を翻訳す ベルツ、東京医学校に着任す	○1876：日曜日は休み、土曜日は半休の令
1877	明治 10	ロッセン：血友病の遺伝形式について論ず(劣性伴性遺伝を説く) 東京大学開校(法・理・医・文の4学部)	○1877：博愛社創社(日本赤十字社のはじめ)
1878	明治 11	コッホ：破傷風菌の発見 イギリスで歯科医師条令公布	○1878：フェノロサ(Fenollosa, アメリカ), 東京大学に着任 ファーブル(J. H. Fabre, フランス), 昆虫記を著す
1879	明治 12	ファルクソン：エナメル上皮腫を記載 パリー：歯科医学校創立 医師試験規則定む(専門科目に歯科がみられる)	○1879：エジソン(T. A. Edison, アメリカ), 炭素線電球の発明

Fig. 1 1870～1879年の日本近世歯学史・社会・文化史年表
(本間邦則著：歯学史概説 108～109頁より抜粋)

Senator Pierre Baillargeon (JSDH, 19 (3), Fig. 4)
W. H. Patton
A. C. Stone
W. Theophilis Stuart
James L. Benson
C. P. Lennox

3. Formal education (1870～1879)

1870年代のCanadaのEastern halfは日々が開拓の時期で、典型的なCanadian田舎者達は農業生活、藪の開拓に、海岸沿いの村民達は専ら漁業を営んでいた。

1871年の人口調査では1万人を越す市が9市に達し、その内訳は次の数値であった。

Montreal129,822
Quebec59,699
Toronto59,000

Saint John41,325
Halifax20,000
Hamilton20,000
Ottawa20,000
London18,000
Kingston12,407

この頃から都市化への強い傾向は現在まで続き、1871年の全Canada人の80%が田舎風であったのが、1881年の数は74%まで変わった。

1871年代の全国の人口は3,687,251人であったのが、1881年には4,324,810人にまで急増していた。

煉瓦造りの家は骨組みが堅牢な家並になり、街は埃だらけであったが、工夫を凝らしたCanadian lifeは何時しかそのStyleにも改良の姿を示し、そんな中で1874年 A. G. BellはOntarioのBrantfordで世界で初めての電話を実際に使用する人となった。

1870 年 Manitoba 州は相当な妥協のもとに、Canada 連邦と締結し、1 年後の 1871 年 6 月 20 日 British Columbia は Canada で 6 番目の州になり、1873 年には Prince Edward Island が正式に同盟国となり、A Mari Usque ad Mare という州を興し、Manitoba と British Columbia の間にあった荒野の地域は Canada の一部として North-West 準州となった。

1871 年の Dental records には Quebec Dental Society が多くの“臨床の方法や態度の点で歯科医師として反職業的な広告”⁶⁾に注目し、その解決として、同年の終りに Ontario Dental Society の命令によって Ontario Board は Hamilton の悪名高い Advertiser であった S. J. Sovereign の免許の取り消しが記録されている。

Montreal Dental Society の第 2 回会議で、真剣な試みとして支払いのない患者に対する取り立ての基準を設定し、“Black Book”を公開して、その中に“dead-head patient”の名前と住所を記入し、Society の各 Member 達はその Copy の一部を持っていた⁷⁾。

1870 年 Quebec Dental Society の会議の席で、G. Beers は簡単な意見として“もしも、歯科を高度の職業として考えるなら、靴の職人以上の仕事で頭脳を使って診療に従事し⁸⁾，“cheap dentist”と“well-qualified dentist”は区別して認定され、gold-foil 充填の時には前者には 75 セントでも、後者には 2\$ を支払うべきである”と報告している。

年季奉公には多くの者が“training”として悪用で使用され、良い臨床家は 1 人の学生を training したが、大多数の歯科医師達は彼等自身の利益のために年季学生を使用したもので、社会の批判の圧力は正規の教育機関の設立に発展したが、Ontario Board は Toronto での二つの学校の失敗に大いにためらいを持ったが、Board は総合大学と合併する形態を得る努力をして、Toronto 大学の理事会で Dental Science に Curriculum と Examination を設立する様に願った。

Harvard 大学は 1867 年に歯学部を組織化し、

Dental Medicine の学位記を、California State 大学は同じ行動を起こして Dental Surgery の学位を授与した。

Toronto 大学はこの件に関して拒絶し、Kingstone の Queen's 大学は長い討論を行ったが、有効な結論を出すに至らなかった。

(世界初の Dental School, Baltimore College of Dental Surgery は 1840 年に設立され、1870 年には他の学校が United States にも組織化されたが、Harvard 大学が初めて大学の司法権を持った)

Ontario に於ける多数の歯科医師達の間には“Doctor”の title の名声を得るのに大きな不安と不満が生じ、遂に Dental Act のもとに、Board は Licentiate of Dental Surgery (LDS) としての力しかないのに、時々誤った学位を認めた。

医学部卒業生で歯科臨床についた幾人かの人や、United States で卒業し Canada へ来た幾人かの人“Doctoral Degree”を称した。

しかし、Canada では総合大学のみで学位の取得が可能であったので、多数の歯科医師達は初めから勝手に、本来は正式でない“Doctoral degree”を使用し、この曖昧な状態が 1889 年まで続いた。

1875 年 7 月、Hamilton 会議で Ontario Dental Society は Toronto に歯科大学を設立するための Ontario Board の要求に対して“我々の決定は十分な基金の充実に便宜を計るべき援助をすること”と強力な採決をした。

Board Action は主なる困難である経済の対策が解決されたとして、十分な選考と検討の末に 2 名の教授：J. B. Willmott と Luke Teskey を任命すると共に、最初の 4 ヶ月の Course が 1875 年 11 月 3 日に開始され、8 名の学生が出願して、2 科目の講義が行われ、附属病院には 7 名の正式な歯科医師の 1 名が、毎朝交代で歯牙疾患の無料の治療をも行った。

この Toronto に於ける歯科の学校の創立、即ち、Royal College of Dental Surgeon of Ontario の創立こそは、近代化しつつあるカナダの 1870～1879 年間に於ける歯科学や歯科教育およ

FIRST ANNUAL ANNOUNCEMENT
OF
The School of Dentistry
TORONTO
Established under Authority of the Statutes of Ontario 85 vic. cap 84
by the
ROYAL COLLEGE OF DENTAL SURGEONS OF ONTARIO

SESSION OF 1875-6.

BOARD OF DIRECTORS AND EXAMINERS.

C. S. CHITTENDEN, L.D.S., President.
HENRY T. WOOD, L.D.S., Treasurer.
J. B. WILLMOTT, D.D.S., M.D.S., L.D.S., Secretary.
F. G. CALLENDAR, L.D.S., Registrar.
L. CLEMENTS, L.D.S. S. ZIMMERMAN, D.D.S., L.D.S.
C. P. LENNOX, L.D.S.

FACULTY OF INSTRUCTION.

J. B. WILLMOTT, D.D.S., M.D.S., L.D.S., Lecturer on Operative
and Mechanical Dentistry, Dental Pathology, Chemistry and
Materia Medica.
L. TESKEY, L.D.S., Lecturer on Anatomy, Physiology, Dental
Histology and Dental Surgery.

CLINICAL INSTRUCTORS AND DEMONSTRATORS.

F. G. CALLENDAR, L.D.S.	R. G. TROTTER, L.D.S.
M. E. SNIDER, L.D.S.	L. TESKEY, L.D.S.
S. ZIMMERMAN, D.D.S., L.D.S.	H. HIPKINS, L.D.S.

LECTURE ROOM AND INFIRMARY: 46 CHURCH STREET, TORONTO.

First announcement of the School of Dentistry, Toronto – eventually the University
of Toronto Faculty of Dentistry

Fig. 2

び歯科臨床等に貢献した最も重要な出来事の一つ
となり、Willmott や Teskey : 彼等に対する期待
は大きく、学問的にも行政的にも彼等の双肩に責
任が置かれた (Fig. 2).

James Branston Willmott は 1837 年 6 月に、
Ontario, Halton Country で誕生したが、両親は

英国人で、開拓時代に Canada へ移住して、苦勞
して荒野を実りある畑に変えた。

Willmott は 1854~1855 年にかけて Victoria
大学で修行し、Arts の学位を得たが、健康を害し
病気のために田舎に引き込んだ。

その後、彼は 1858 年歯科学生として Toronto
の W. Case Adams の診療所に入り、2 年の修行

の後に彼の生地近くにある Milton の町で歯科の臨床を開始すると共に、町の行事にも活発に参加して Trust の地位を得て、Justice of the Peace に任命されて町の相談役に選出された。

一方、彼は 1870 年 1 月 Philadelphia Dental College に入学し、1871 年に首席で卒業し、Dental Surgery の学位を取得し、同時に歯科の診療所を Toronto に移した。

彼はその生涯を通して、熱烈な自由主義者で、多くの友人を作り、敵を嫌い、多くの人は彼の誠意を疑わず、宗教的行動は敬虔なる Methodist として捧げた。

1868 年、Ontario Dental Association が意見の不一致から 2 つの組織に分裂した時に、その不和を直すために 1869 年の数ヵ月は彼は統一会議の Secretary として活躍し、その後 1870 年の免許に関する公開会議に於いては、Ontario Board に選出され、僅か 1ヵ月後にはその Secretary となり、1915 年に彼が死去するまでその地位を継続した。

彼は 40 年間も Ontario Dentistry の多局面に於いて指導者であったが、最大の貢献は教育の分野であり、Toronto で学校が開校された時には Board は校長を任命しなかったが、実際には彼が学校の Head として努力し、その後は妥協を拒絶し、頑固に原則を優先させる Dean の地位を彼の死まで占めていた。

彼の息子、Walter F. Willmott は 1880 年に卒業と同時に Toronto School の staff となり、多才な能力で活躍し、父の死後には Ontario Board の Secretary となり、それ以後 50 年以上にわたりその任務に励み、Ontario Dentistry の個人的な友人としても広く交際があった。

父とその息子の Willmott は、異なった時代の間を 2 世代にわたって、同じ職業に偉大な貢献をはたし、半世紀以上にも及ぶ Ontario Dentistry の歴史の一頁は Willmott の名なくして有り得ない。

Luke Teskey は 1873 年の Ontario Board の試験に合格して Dental Surgery の免許を獲得したとされるが、個人的な歴史はあまり多く周知されていないが、優れた歯科の臨床家で 1875 年の Toronto School の設立に際し Willmott と共に教

授に任命された時にも医学の研究に励み、2 年後には Trinity Medical College を卒業し Doctor of Medicine の学位を取得し、その後に England の Royal College of Surgeon の資格をも取得し、Toronto General Hospital の外科医 staff になった。

彼は初期の歯科教育に対して大きな貢献を 30 年以上も School の staff として奉仕した。彼の科目は医学、特に、内科と外科の原理と実地について教授するが、一方では 15 年間も School の Registrar として奉仕し、Willmott と協調して歯科教育の Base-lines を考えた。

その外の教授としては F. G. Callendar, C. S. Chittenden, H. Hipkins, Thomas Rowe の氏名があり、彼等の教授する学校は 1892 年まで Canada での唯一の歯科学校として存在した。

1880 年には Ontario で 341 名、Quebec では 117 名の臨床に従事する歯科医師が登録されているが、Atlantic の州にはまだ歯科の登録は無かった。1881 年の人口調査では Canada 全体で 510 名の歯科医師が報告されているが、実際問題として Ontario と Quebec 以外の地域では正規の歯科医師の資格を持った者と持たない医師の区別を決定するのは困難であった。

Ontario Board の President で、Royal College of Dental Surgeons of Ontario の staff でもある Henry T. Wood は学生の創造性を高めるために Dental Act の修正案として登録時に適用するべく提出するも拒絶にあうが、その後には Master of Dental Surgery (MDS) の Title を授与する許可を得た。

この Title を得ることは高度な試験を受けて通過することが要求されたので、MDS は優れた資格の一つに確立され、1878 年に最初の授与があって以来 1952 年まで継続し、全体として 39 件の授与があり、この Action は歯科の academic な立場の高揚に効果があった。

1877 年、Hubbard's Dental Depot は歯科医師達のために Kearsing, Valleau, Pack, Watt 社の "Crystal and corrugated Gold foil" を、S. S. White, Justi, Johnson and Lund 社の歯（人工歯）

を安価で販売する広告をしている。

その他に vulcanizer, forcep, plugger, excavator, operating chair, lathe, corundum, wheel, brush, file, celluloid plate, その他各種の品物を職業歯科向けに提供している⁹⁾。しかし, Amalgam について言及した広告は無く自由, 勝手に使用されていた。

1870 年代の最大の改革は Morrison Dental Foot Engine の紹介につきる。

この時代までは Hand instruments が広く使用されていたので, 機械 Engine の導入は大きな懷疑主義を巻き起こらせた。

1878 年, Montreal の批判的な歯科医師, J. A. Bazin は彼の目を通して, 将来に於ける Engine の最悪の諸危険として “患者の口腔内で発見される歯の患部の適当部を切削する時に, 速度と共に熱の発生があり, 痛みを増大させ, 患者の機械に対する恐怖心を鎮める工夫がいる” と指摘している¹⁰⁾。

Ottawa の Charles A. Martin は多年間, 東 Ontario の非常に人気のある完全な二ヵ国語 After-dinner speaker であり, 講演の時には通常は英語で話していた。

1880 年に設立された Eastern Ontario Dental Association の会議は彼の講演で成功した。その成功とは, 初期の人生を銃工で過ごした彼は優れた機械工であり, Dental Engine についての経験の一つを講演で述べている。

彼と彼の兄弟は数年間にわたって Drill を作動させるのに Pulley と Belt を組み合わせる実験を重ね, この実験が完成した時に Yankee pedlar がそれを使用するべく訪問してきたが, 次回には他の人の真似の出来ない程の道具として完成していた。

この講演と彼等の製作した Dental Engine の発表は, 歯科の臨床に熱意のある歯科医師に大きな刺激と創意と工夫の機会を与えた。

1870 年の初期に Quebec 州の Dental Association の会議の席で, Pierre Baillargeon は歯に対する砂糖の効果に関する論文を提示した。

同時に W. H. Patton は Dental Hygiene の問

題について前進的な手引きを提出し, また, London の A. C. Stone は小児の歯の齲蝕と患者教育の必要性を強調した。

他の個々の歯科医師の間には歯科の機械化の機運が高まり, その問題に対する教育の機会が時々開催された。

歯科教育に関しては, Toronto School 開校以来, 基礎学科に重みを置いた Course が開始し, 二人の教授が任命されると, 一人は医学実地をも担当し, 1877 年には第三の教授, W. Theophilus Stuart がもう一人の Medical Doctor として任命された。

基礎学科の強調の必要性は今日でも認識されているが, しかし, Toronto School では何年もこの点を強く主張していたが, この問題に対する批評は “哲学ではパンは焼けない” という古い格言に基づいていた。

新しく創設された Manitoba 州はまだ人口が少なかったが, Winnipeg で 歯科の診療所を開設した最初の歯科医師は James L. Benson で, 1870 年 Red River Rebellion の青春時代に, 一人の若人として Wolsley 探検隊と共に西部へ行ったが, Ontario の Peterborough の生地へ戻り, それから Lindsay の Jacob Neelands の所で年季奉公をした。

1870 年の後半に彼は西部へ移動し, Winnipeg で歯科診療所を開設し, 1926 年に彼が死去するまでその地に滞留した。

その当時 “Measure of Profession” は歯科医師会, 学校, 雑誌の強力さと発展に負っていたので, 17 世紀の終わりには歯科医師会, 学校, 雑誌, 夫々の開始が Canadian Dentistry の間にも起こった。

Association of dentists は Quebec と Ontario に存在し, その組織化は急速な強さを得たが, それは数人の歯科医師の努力に委ねられていた。

学校は Toronto に開校し, その設立以来から急速な発展の過程を辿り, その将来は明らかに進展していた。

雑誌は Canada Journal of Dental Science として設立されたが, しかし, 躰きの経過を採らざる

を得なかった。

George Beers は雑誌の出版の重要性を実感する優れた編集者であったが、しかし、彼の努力は彼個人のもので、伝達的手段を準備するための彼個人の経済的資産は遂に枯渇した。

Association は彼に必要な支援も地位をも差し出さなかったので、月刊誌は 1872 年 5 月に終刊し、1877 年と 1878 年の間に 4 回の刊行が行われたが、次の 10 年は雑誌のないままで経過し、歯科の発展に大きな遅れをもたらした。

Chatham の C. P. Lennox は Ontario Dental Society に対して“教育は実地に基づく職業のために行うべきで、また、多くの歯科医師の保護のためには登録を強化すること”¹¹⁾と指摘した。

文 献

- 1) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU : カナダに於ける歯科教育の歴史 第 1 報—ブリティッシュ・コロンビア州を中心として—。歯医史 19(3) : 103-109, 1993.
- 2) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU : カナダに於ける歯科教育の歴史 第 2 報—歯科及び歯科教育の貢献者像—。歯

医史 20(2) : 135-140, 1994.

- 3) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU : カナダに於ける歯科教育の歴史 第 3 報—1870~1879 年間の歯科及び歯科教育の貢献者像—。歯医史 20(3), 投稿中, 1995.
- 4) Gullett, D. W. : A History of Dentistry in Canada. The Canadian Dental Association by University of Toronto Press, 1971.
- 5) 本間邦則 : 歯学史概説。 (株) 医歯薬出版, 東京, 昭和 46 年 9 月, 108-109.
- 6) Canada Journal of Dental Science, Vol 3, May, 1871.
- 7) Canada Journal of Dental Science, Vol 3, June, 1871.
- 8) Canada Journal of Dental Science, Vol 3, December, 1871.
- 9) Canada Journal of Dental Science, Vol 4, November, 1877.
- 10) Canada Journal of Dental Science, Vol 4, March, 1878.
- 11) Canada Journal of Dental Science, Vol 2, August, 1870.

著者への連絡先 : 尾島光栄

〒102 東京都千代田区富士見 1-9-20
日本歯科大学生理学教室
電話 03-3261-8311 (内) 328